

食関連産業省力化促進事業

(内閣府・地方創生推進交付金)

R2事業額:37,500千円(国)18,750千円、道18,750千円)

- AIやロボット等の先端技術を食関連産業に広く導入し、食の生産現場の省力化や生産性向上を図るため、道内の大学等試験研究機関と民間企業等が共同で取り組む研究開発やその成果の製品化・事業化に要する経費等をR元年度から補助。
- 事業実施のため、大学等試験研究機関や民間企業等で構成する協議体(事務局:ノーステック財団)を設置し、協議体内で2つのプロジェクトチームが「国際規格に対応した農作業機の開発」と「食品製造工程の自動化」をテーマに研究開発等に取り組む。
- 事業の着実な推進のため、協議体と別にガバニングボードを設置し、協議体による研究開発内容の審議や進捗管理、サポートを実施。
- 事業期間内(R元~R3年度)に「試作機の開発」を行い、事業期間終了後、1年の間に製品化を目指す。



協議体による研究開発内容の審議や進捗管理、サポート、地域ニーズの反映等

食関連産業省力化促進事業協議体(通称:フードテック北海道)

事務局:ノーステック財団

プロジェクト①

「ISOBUS対応農作業機の開発」

ISOBUS対応の農作業機の開発により、メーカーを問わず、トラクターと作業機間での収穫量情報の送信や運転速度の自動制御等が可能となり、農作業の生産性向上に貢献。



プロジェクトチームA

とちか財団(PJリーダー)

農機メーカー(共同研究)

帯広畜産大学

※ISOBUSとは、国際規格ISO11783の実装技術を国際農業電子財団(AEF)が一定のガイドラインに沿って認証するもの。電子通信規格。

プロジェクト②

「食品製造工程の自動化技術の開発」

●多品種対応のロボットハンド

●異物検査装置

多品種対応のロボットハンドや異物検査装置の開発により、工程の多くを人力に頼る食品製造現場の自動化、省力化に貢献。



プロジェクトチームB

工業試験場(PJリーダー)

機械メーカー(共同研究)

北海道大学